



関本昌平さん(2003 特級グランプリ、第1回福田靖子賞、2005 ショパン国際ピアノコンクール第4位)は、ピアノコンチェルトの最高峰、ラフマニノフの3番。この長大で難解な作品に、自らの熱い思いを盛り込んでいく。圧倒的な迫力のコーダも、一分の隙もない見事な技巧で弾ききると、熱狂した聴衆からブラボーの声が飛んだ。

# 創立40周年を豪華に飾る、 三大コンチェルトの一夜 「ピアノコンチェルトの夕べ」

2007年3月28日(水) 会場:サントリーホール

3月28日(水)夜、ピティナ40周年記念「ピアノコンチェルトの夕べ」と題して、ピティナが送り出した3名のソリストたちによるピアノ協奏曲の競演が行われた。サントリーホール大ホールには、全国津々浦々から駆けつけたピティナ会員、支部・ステーション・協力各社のほか、一般のお客様も多数詰めかけ、大盛況のコンサートとなった。共演は、渡邊一正氏の指揮するNHK交響楽団。コンサートマスターには

篠崎史紀氏など、日本を代表するソリスト級の演奏家たちがずらりと並び、素晴らしい演奏で若手を支え、コンサートを盛り上げた。

40年にわたるピティナの歴史が生み出した、3人の個性溢れるピアニストたちと、彼らを見守るあたたかい聴衆。素晴らしいピアノコンチェルトの響きに包まれながら、次の5年、さらなる発展への誓いをそれぞれの心の中で新たにしたい一夜だった。



ピティナ 40 周年記念は、サントリーホール大ホールにて。開場とともに二千人近くの聴衆が一気に会場へ。ピティナ会員だけでなく、一般客にも多くご来場頂いた。また海外からの来客も。グスタフ・アーリンク氏(国際コンクール研究家)がオランダからお越し下さった。



須藤梨菜さん(2005 第 2 回福田靖子賞、2006 ダブリン国際ピアノコンクール第 5 位)は、リストのピアノ協奏曲第 1 番を演奏。「お祝いのコンサートなので、喜びの気持ちが伝わるように弾こうと思いました。」情熱的に弾ききり、見事にトップバッターの重責を果たした。



感動的なラヴェルを披露した金子一朗さん(2005 特級グランプリ)。「ピティナのコンクールや催し物に出演し、多くのピアノの先生方と関わったこの 4 年間は、自分の音楽そのものを変えてしまうほどのインパクトだった。」その音楽には、2003 年から特級とグランミューズ部門で腕を磨き、ステップ・セミナー・フェスティバル・公開レッスンなど、ピティナのあらゆる学習経験を昇華した、高い芸術性と知性が薫りたっていた。



終演後、安堵の表情を浮かべるリストの 3 人。いずれもピティナの「この 5 年」を象徴している。右は二宮裕子理事、左端は福田成康専務理事。